



# ココロとカラダで、気づく、学ぶ。その体験が子どもを変える。



## あすチャレ! Schoolとは

それは、子どもにとって貴重な、学びの機会を提供する体験型授業。  
パラアスリートと共にスポーツを体験し、リアルな声を聴くことで  
きっとこれまで見ていた景色が変わり、

新たな一步を踏み出すきっかけが生まれることでしょう。

人間の多様性を認め合い、人間の強さやすごさを  
身をもって体験することで、

子どもたちの心が動き、新たな学びにつながります。

誰もが夢と希望を持って、いきいきと過ごせる社会を創る。

これが私たちの掲げる

“明日へのチャレンジ”、「あすチャレ!」です。

「想い」を必ず「行動」に。

### Challenge For Tomorrow



## 「あすチャレ! School」で 楽しみながら伝えたい、気づきと学び

障がい者が抱える一番の障がい。それは、身体上の「障がい」ではなく、  
社会に存在する「障がい」だと考えます。

その「障がい」は、社会で生きる一人一人が視点を変え、

気づいたことを行動に移す勇気があれば、取り除くことができます。

「あすチャレ! School」はパラスポーツによるプログラムを通じて、

「i enjoy!」の精神を胸に、参加者に気づきを与え、

意識を変え、行動(明日へのチャレンジ)につなげます。



パラリンピックサポートセンターの  
キーメッセージ

「楽しむ人は、強い!」

### 4つの学び

#### 他者のことを 自分ごととして考える心

他者が抱える問題を自分のこと、同じ仲間のこととして  
捉える力を持つ大切さを学ぶことができます。

#### 障がいとはなにか?

「障がい」とは「障がい者自身」が持つものではなく、  
社会に存在するものとする考え方や  
多様性を認め合うことの大切さを学ぶことができます。

#### 可能性に挑戦する勇気

「障がい」の有無に関係なく、すべての人が個々の  
可能性を持っていることに気づき、勇気を持って  
挑戦することの素晴らしさを学ぶことができます。

#### 「夢」や「目標」を持つ力

パラアスリートがアスリート生活を通じて  
経験してきた夢や目標を持つ価値と重要性について  
直接話を聞くことで肌で感じるすることができます。

## 講師紹介

### 根木 慎志 (ねぎしんじ)

シドニーパラリンピック男子車椅子バスケットボール日本代表キャプテン/  
日本財団パラリンピックサポートセンター「あすチャレ!」プロジェクトディレクター



根木先生の「あすチャレ!」

出会った人と  
友達になる  
根木慎志

岡山県生まれ。高校3年生の時、突然の交通事故で脊髄を損傷。以後、車椅子での生活となるが知人の勧めで車椅子バスケットボールに出会う。2000年シドニーパラリンピックでは男子車椅子バスケットボール日本代表キャプテンを務める。現役時代から「出会った人と友達になる」というライフテーマをモットーに全国各地の小中高등학교を訪れ、講演やバラスポーツ体験授業を行ってきた。現在はこれまでの経験を活かし「あすチャレ! スクール」の講師として全国各地で授業を行う。日本パラリンピック委員会運営委員も務める。

### 高田 朋枝 (たかだともえ)

北京パラリンピック女子ゴールボール日本代表



高田先生の「あすチャレ!」

Making  
the whole  
world happy  
高田 朋枝

5歳のころに網膜色素変性症で視力が低下し、現在は明暗が分かる程度。高校の体育の授業でゴールボールと出会い、2008年に北京パラリンピック出場。大会後、ゴールボール視察を目的に欧米10か国を回る。帰国後はこの経験を生かし普及活動に尽力。現在は、あすチャレ! スクールの講師として活動する傍ら、選手として2020年東京パラリンピックへの日本代表を目指す。

### 神保 康広 (じんぼやすひろ)

パラリンピック男子車椅子バスケットボール元日本代表(4大会出場)



神保先生の「あすチャレ!」

スポーツで  
世界中を  
ひとつにしたい!  
神保 康広

東京生まれ。16歳の時にバイクの自損事故で下半身麻痺に。1992年バルセロナから2004年アテネまで、4期連続パラリンピック出場。2000年、レイクショア財団研修生として渡米、障がい者スポーツ指導法を学ぶ。NWBA(全米車椅子バスケットボール協会)デンバーナゲッツ在籍、全米選手権ベスト4。2006年マレーシアに渡り、車椅子バスケットボールの普及活動及びナショナルチームコーチ就任。現在、(株)松永製作所でスポーツ車椅子のブランドマネージャーとして製品企画・開発及びCSR活動に従事。2015年よりジンバブエ国にて車椅子バスケットの普及活動及び選手指導を継続中。

今後、その他の競技のパラアスリートも講師として授業を行う予定です。

## 参加者の声

あすチャレ! スクールは、2016年度中に100校3万人、  
2020年までに1000校50万人を目標に実施していきます。

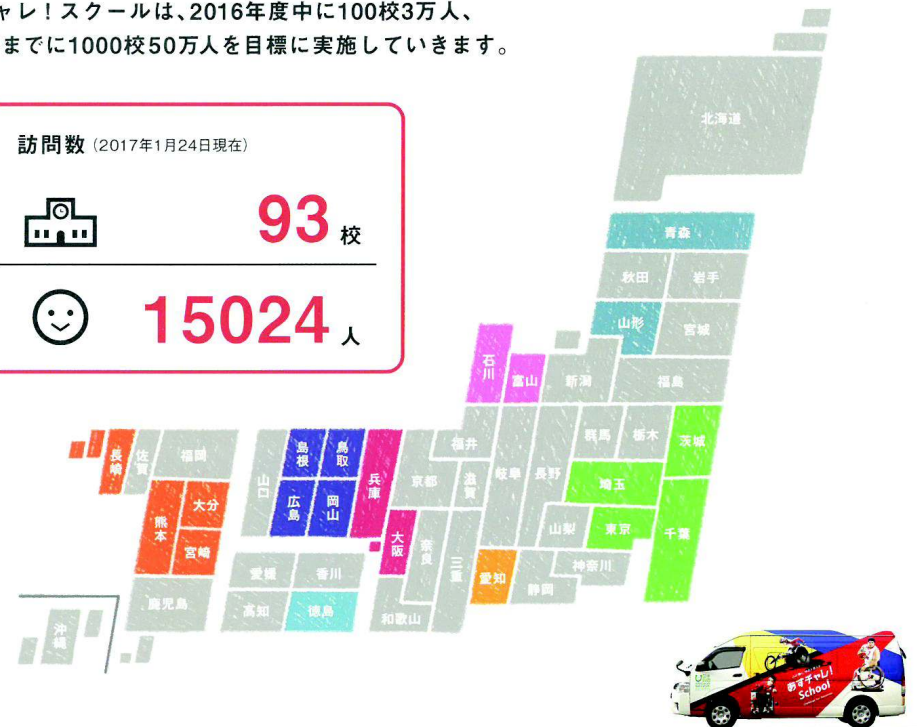
訪問数 (2017年1月24日現在)



93 校



15024 人



### 児童生徒の声

「できなくても一生けん命やればいい。」という言葉がとても心に残りました。私もできなくてもあきらめず一生けん命やろうと思いました。

鳥取県 小学5年生 女子

好きなことはとことん好きでいること。でもだからといって苦手なことを最初からやらないで放っておくんじゃないかと、やってみる。これまでは苦手なことに自分から行動したことはなかったけど、これからはやってみる。

大阪府 中学2年生 男子

今までは「障がいってどんなこと?」と聞かれると体のどこかが不自由な人と思っていたけど、話を聞いて障がいは建物や人や社会がつくっているんだと思いました。なので、これからは障がいをつくらず、みんなが気持ちよく生活できる世の中をつくらせていきます。

愛知県 中学1年生 男子

### 教員の声

生徒の感想から「障がい」に対する意識に変化が生じ、「みんなの意識が変われば障がいはなくなる」など、前向きな態度や意欲がうかがえます。

石川県 中学校 男性

教室に入りにくい状態で別室教室をしている生徒が「教室に戻れるように頑張りたい」と言い出したり、支援学級で勉強するのが恥ずかしいと抵抗していた生徒が「入級したい」と言い出したり、あすチャレ後に明らかに今までと違う人生や日常に踏み出そうという動きがあります。

大阪府 中学校 女性

生徒はこの度の機会を頂き、それぞれの「明日への挑戦」を抱き、学習に部活動にと一層意欲的に取り組んでおります。学校という場において生徒が輝き懸命に取り組む姿は室であり大変うれしく思っております。

広島県 中学校 男性

## 日本財団パラリンピックサポートセンターについて



パラスポーツの魅力満載

パラサポ公式サイト

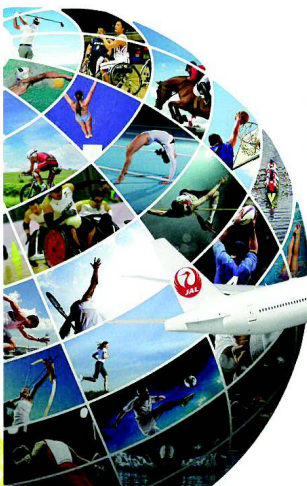
<https://www.parasapo.tokyo/>



日本財団パラリンピックサポートセンター(通称:パラサポ)は、2020年東京パラリンピック大会の成功とパラスポーツの振興を目的に、2015年5月、日本財団の支援により設立されました。日本財団ビル4階(東京都港区赤坂)には、パラリンピック競技団体(28団体)が入居・利用する共同オフィスを設け、団体間のコミュニケーションを促進する垣根のない開かれた場とユニバーサルデザインを徹底した空間を、競技団体、関連団体、スタッフ、パラアスリートと共有しています。またパラサポでは「パラ駅伝」や「パラフェス」などの様々なパラスポーツの普及啓発プログラムや、小中高生を対象とした「あすチャレ! School」や大人向け「あすチャレ! Academy」など、パラスポーツを通じた教育プログラムを全国で展開しています。



## 協賛企業



日本航空は、東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャルエアラインパートナーです。

勝利を夢見て、ひたすら努力するアスリートたち。彼らの頭張り、汗が、涙がスポーツの魅力となって輝く。勝敗をこえた感動を、私たちに与えてくれる。彼らのさらなる飛躍を願い、JALはスポーツの夢を応援します。

翼は、夢を見る。



心が動く、明日を変える  
**あすチャレ! School**  
Challenge For Tomorrow

Supported by



JAPAN AIRLINES